

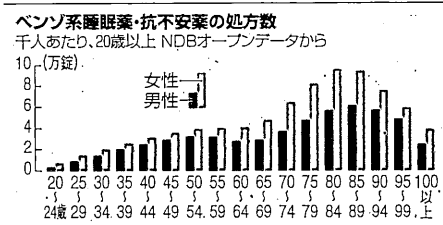
高齢者 高リスク薬多用

睡眠・抗不安処方80代ピーク

のみ続けると転倒や骨折、認知機能の低下を招きやすいため、高齢者はできるだけ使用を控えるべきだとされている。睡眠薬や抗不安薬が65歳以上に多く処方され、ピークは80代だった。厚生労働省のデータをもとに朝日新聞が解析し、リスクの高い薬が多用されている実態が浮かんだ。▼2面＝薬切れパニック症状も

データ作りには携わった吉村健佑・千葉大特任教授(医療政策学)の協力を得て、2017年度に外来処方されたベンゾ系睡眠薬・抗不安薬について集計。人口千人あたりの処方数を、年齢層別に出した。

ベンゾ系の睡眠薬・抗不安薬のうち、性別と年齢層

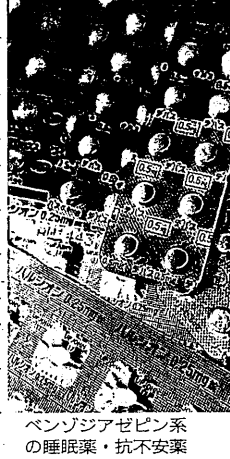


判別できる約39億8千万錠を解析。53%の約21億錠が65歳以上に、33%の約13億1千万錠が75歳以上に処方されていた。

男女別では女性が多く、千人あたりの処方量は、女性では80・84歳が約9万7千錠でピークに。この年代は年に平均100錠近くの不眠薬を処方されている。

代表的な睡眠薬・抗不安薬(商品名は一般名)の内には、

- デパス(エチゾラム)
- ゾラナックス(アルプラゾラム)
- リーゼ(クロチアゼパム)
- ハルシオン(トリアゾラム)
- ワイパックス(ロラゼパム)
- メイラックス(ロフラゼパム)
- セルシン(ジアゼパム)
- レキソタン(ブロマゼパム)
- ロヒプノール(フルニトラゼパム)
- グランダキシン(トフィソパム)



ベンゾジアゼピン系の睡眠薬・抗不安薬

んでいる計算になる。続いて85・89歳、75・79歳と続

なぜ高齢者に多く使われているのか。

東京都医学総合研究所の奥村泰之、主席研究員は「別々の診療所から同じタイプの睡眠薬・抗不安薬を処方されて必要以上の量をのんでいる人が少なくない」と指摘する。

ベンゾ系の薬には、筋肉を緩めて痛みを抑える働きもあり、多くは抑うつに使用されることも認められている。高齢者は複数の不調を抱えやすく、整形外科で腰痛、精神科でうつ、内科で不眠薬と同じ種類の薬が別の

「内密出産」受け入れ表明

熊本・慈恵病院 予期せぬ妊娠対象

親が育てられない子どもを匿名で預かる「この子のゆりかご」(赤ちゃんポスト)を運営している熊本市の慈恵病院は7日、予期せぬ妊娠をして匿名を望む母親が、病院にだけ身元を明かした状態で出産を受け入れると発表した。すぐに実施する。子が後に自分の出自を知る権利を病院が独自に保障する仕組みを設けるとい、事実上の「内密出産」となる。

▼26面＝進めよう法整備

「内密出産」受け入れ表明

匿名で出産を望む女性が、病院や専門機関にだけ身元を明かした状態で出産する制度。身元を伝える必要がなく、子どもが成長するにつれて、本人が自分の出自を知ることができるようになる。2014年から実施しているドイツで、母親が身元を明かして出産する費用は原則16歳になるまで、母子の費用は国が負担する。匿名で出産する場合は、母子の費用は国が負担する。匿名で出産する場合は、母子の費用は国が負担する。

民事裁判オンライン化

政府骨子案 国またぐ処理速く

企業や個人による国境を越えた取引が活発化し、契約などをめぐる民事トラブルが増えたことに対応する

のすべての手続きのオンライン化や、海外との取引でトラブルを抱える消費者の支援強化などを盛り込む。

に最終方針を決め、民事訴訟法や特許法など必要な改正や体制整備に着手する。改革の目玉は民事裁判手

裁によると、2018年の民事裁判の審理期間は平均9カ月。現行の民事訴訟法は、訴状などの書類は裁判所に持参するか、郵送やファクスで送らなければならない。審理でも当事者が裁判所に出席する必要がある。このため外国企業は日本での訴訟に消極的で、オンライン化が実現した米国のどの司法制度下で訴訟が行われることが多い。

海外旅行時のホテルや航空券の予約などネット取引の増加に伴って、民事裁判の件数が増えることが予想される。国境をまたぐ取引の増加に伴って、民事裁判の件数が増えることが予想される。

「天声人語」

古く文章を読んでいる。書き手には未来が見えていたか、と思つておられる。武者路実篤の「日米戦争はまさか」と思ふが、その一つだ。日本が米英との戦争を始める前、雑誌「文芸春秋」に載った「日米戦争」は、中々起つて来ないやうに思ふ。日米戦争の起つて来ないやうに思ふ。日米戦争の起つて来ないやうに思ふ。

「内密出産」受け入れ表明

匿名で出産を望む女性が、病院や専門機関にだけ身元を明かした状態で出産する制度。身元を伝える必要がなく、子どもが成長するにつれて、本人が自分の出自を知ることができるようになる。2014年から実施しているドイツで、母親が身元を明かして出産する費用は原則16歳になるまで、母子の費用は国が負担する。匿名で出産する場合は、母子の費用は国が負担する。

カチッ

力を入れ過ぎを音でお知らせ

NEXT STAGE

日本初

歯ぐきが下がる原因となる

カチッ

力を入れ過ぎを音でお知らせ

NEXT STAGE

「天声人語」

古く文章を読んでいる。書き手には未来が見えていたか、と思つておられる。武者路実篤の「日米戦争はまさか」と思ふが、その一つだ。日本が米英との戦争を始める前、雑誌「文芸春秋」に載った「日米戦争」は、中々起つて来ないやうに思ふ。日米戦争の起つて来ないやうに思ふ。日米戦争の起つて来ないやうに思ふ。

薬切れパニック症状も

改善へ処方減らす動き

「高齢者はとりわけ要注意」とされる睡眠薬・抗不安薬の大半は、65歳以上の人以外処方され、健康被害の報告も相次ぐ。そんな中、薬を減らすとする動きも出てくる。

▼1面参照

東京都大田区の70代女性は、今年6月から9月に6回、救急車を呼んだ。

十数年前からベンゾジアゼピン(ベンゾ)系抗不安薬ソラナックス(一般名アルプラゾラム)をのみ続けた。効果が切れると胸が苦しくなって息切れし、頭痛くなった。

パニック症状を起こし、

機能が低下して妻と視線が合わせられず、会話もできなくなった。

不眠をきっかけに1日3錠のみ、別の同系統の睡眠薬も時々追加した。やがて頭がくらくらして足がふるつき始め、薬が切れると不安が高まった。呼吸が速くなる過換気の発作になった。

大田区の在宅療養支援診療所「たかせクリニック」の高瀬義昌医師は、こうした患者のベンゾ系の薬を減らすことに力を入れる。パ

ニックになった女性には「不安になったらいつでも電話して」と伝え、副作用がより少ない抗うつ薬に変更した。デパスをのんでいた男性についても徐々に減らし、やはり抗うつ薬に変えた。2人とも症状は改善し、自宅での暮らしを続けているという。

高瀬さんは「ベンゾ系は依存性が強く、薬が切れると不安感に襲われパニックに陥りやすい。ときに『中毒』すら起こす薬だ」と指摘する。

厚労省も、これらの薬が使われすぎる事態を問題視。2016年、エチゾラムを麻薬取締法で規制対象となる向精神薬に新たに指定した上で、一度に処方できる日数を最長30日分に制

限した。不調があり、長くのんでいる薬がある場合、医師や薬剤師に相談してみるとよい。昨年5月に公表した高齢者向け医薬品適正使用の指針には「薬物療法の前に睡眠衛生指導を行う」などと記している。

ベンゾ系の薬は、高齢者では不眠に使われることが特に多い。ただ一般に、年をとると必要な睡眠時間は短くなる。「しっかりと寝なければ」と思い込まずに、日中に体を動かし、夜は遅めに床につき朝は早めに起きて日光を浴びることで改善しやすい。腰痛では運動療法が効果的で、不安やうつにはカウンセリングを中心とした「認知行動療法」が保険適用されている。

(松浦祐子、田村建)

原発アピール躍起だけど

「CO₂と戦う」COPで業界訴え

地球温暖化対策として、発電時に温室効果ガスの二

温の上昇を2度未満、できれば1.5度に抑えるに

化石燃料を使う火力発電と異なり原発は発電時にCO₂を出さない。世界に約44.0基(長期停止中含む)あり、IEAによると、世界の電力供給の約1

択した、COPに向けた決議には「原子力は気候目標達成のための役割を果たせよ」との文言が盛り込まれた。原子力ルネサンス、電力福島第一運はしぼんだタリア、台湾らないエネルギーる国・地域

J3から移籍1年目でJ1横浜マの優勝に貢献したGK

ひと

イルギョ 朴一圭 さん(29)



1年前まで、J3のFCGにいた。J2でのプレー経験があった。J1へ引き抜かれるだけで、加入1年目で横浜Fノス優勝の原動力になった。「最高。移籍したときから、トルを目標に掲げてきた。甲斐の通りになった」。埼玉県で育った在日3世。で本格的にサッカーを始め、めての練習見学で、次々とトを止める先輩の姿が「輝えた」。それ以来、GKとして、朝鮮大学校からプロ入りし、J2クラブの練習に参加し、色よい返事はなかった。追い、アマチュアとして、朝6時から喫茶店で働いた習へ向かったり、試合後の